

序 文

昭和59年における富山医科薬科大学研究活動一覧（才8輯）をここに刊行することとなりました。本学は間もなく開学十周年を迎えることとなり、その諸施設もようやく完備に近づき、研究活動も次第に充実して、国内的にも国際的にも注目をひく業績が現れつつあることはご同慶に存じます。

本学は医学部と薬学部、和漢薬研究所、附属病院が加わったユニークな構成をもち、その研究活動の特徴の第一は、医学と薬学という異った学問分野を基盤とした研究者が一つの大学に共存して、緊密な連絡をとりながらいくつもの研究計画を共同ですすめていることにあるといえましょう。ここに発表された学術研究にはこのような特色ある内容のものが多くふくまれていることに気がつくられることと思います。

本学では、特に和漢薬研究所を中心にして天然物に含まれる生理活性物質の研究、その薬理作用の解明、臨床への応用などの研究がすすめられていることが注目されます。特に本学の病院には他の国立大学病院には類例のない和漢診療部がもうけられて、伝統的に知られている和漢薬の効果についても新しい医学の見地から再評価を加えつつある業績が積み重ねられています。

本学にも諸外国からの留学生が次第に増加し、また本学の研究者が開発途上国などに出張して行なう研究もいくつか開始され、その国際的な研究活動が活発となりつつあります。また、富山という地域環境の特色に応じた研究テーマもとりあげられており、こういう分野の研究は今後特に重視していく必要があります。

幸いに本学は両学部、研究所、病院とも、その施設や器機はきわめて近代的なものが整備され、古い大学とちがって旧式で能率の悪い器機は一つもないという恵まれた研究環境にあります。かつては、新しい研究にとりかかろうとすると、古い大きな図書館に行って文献を調べる必要がありましたが、現在では本学の図書館に文献検索用の電算器端末が設置され、幸にも市内電話料金で東京に本部のあるJ I C S Tのもつ膨大なデータベースから、目的の範囲にかかわる全世界の論文の抄録を瞬時に手に入れることのできる時代となりました。

こうなると、学問研究をすすめる上に、大都会の古い大きな大学や研究所のメリットはほとんどなくなり、当地のような美しい自然に恵まれ、人情も厚く、水も空気も食物もおいしく、しかも雑用の少ない環境こそこれからの学問研究には最も適した環境と考えます。これからの本学における研究業績の進展にご期待を戴きたいと切望します。

昭和60年1月

学 長 佐 々 学